

「遊びのプログラム」実施にかかるアンケート及び報告書に記載する共通項目について

1. プログラム実施児童館におけるアンケート実施及び報告書作成について

(1) プログラム実施児童館は、プログラムの実施にあたり、参加した子ども、保護者及び地域住民にアンケートを行い、その集計結果及び分析、検証結果を報告書に記載することとしている。

※児童館等における「遊びのプログラム」の開発・普及に係る調査研究業務仕様書 抜粋

5. 業務内容

(2) プログラムの実施

④ 参加者アンケートの作成、実施、回収、集計・集約等

ア プログラムの実施後に、参加して良かった点やプログラムの参加前後で変化した点、プログラムで改善した方が良い点等を盛り込んだ参加者アンケートを実施する。

イ 対象者は、プログラムに参加した子ども、保護者及び地域住民等とする。

(3) 実践内容等の報告

企画・実行委員会において、プログラムの実施内容や参加者アンケートの集計結果、プログラムの実施による参加者や地域、児童館の運営自体に与えた影響とその効果を分析、検証し、今後の改善点や課題などをまとめた報告書を作成する。

報告書の作成に当たっては、実践したプログラムが子どもの成長発達段階においてどのような効果をもたらすのかなどの観点も取り入れるよう留意する。

(2) 当専門委員会において、プログラム実施児童館から提出されるすべての報告書について、プログラム実施にあたって専門委員会としての共通認識を踏まえた統一的な検証・評価を行うため、プログラム実施児童館が行うアンケート及び報告書に対し共通項目を設定する。

2. アンケートに記載する共通項目について

- 実施した「遊びのプログラム」について、子どもやその保護者及び地域の住民を対象にアンケートを行う。
- すべてのプログラム実施児童館の比較を行うため、下記の「共通項目」を設定する。なお、各児童館において「共通項目」に児童館独自の「任意項目」を追加して実施できる。
- アンケートの質問文は、「共通項目」「任意項目」を問わず、すべて児童館が作成する。その場合、方言など馴染みのある言葉を遣い回答しやすい文章を作成する。

(1) アンケートの共通項目（素案）

○子ども用

①対象

小学生、中学生、高校生、その他

②アンケート項目

・性別（単一選択回答）

男、女

・学年（単一選択回答）

小学生（1年、2年、3年、4年、5年、6年）、中学生（1年、2年、3年）、高校生（1年、2年、3年）
その他（ 歳）

・「遊びのプログラム」の感想（単一選択回答）

楽しかった、まあまあ楽しかった、ふつう、あまり楽しくなかった、楽しくなかった

・楽しかったところ

※記述式回答

(1) アンケートの共通項目 (素案) (続き)

・ 「遊びのプログラム」に参加して、新しい友達や大人の知り合いができたか
できた、できない

・ 「遊びのプログラム」への参画 (単一選択回答)

○ 企画・運営から関わったか

はい、いいえ

→ 『はい』の場合

また企画・運営に関わりたいと思うか

関わりたい、少しなら関わりたい、どちらでもない、関わりたいとは思わない、関わりたくない

どんなことに関わったか

※記述式回答

参加してどんなことを感じたか

※記述式回答

→ 『いいえ』の場合

児童館で実施する「遊びのプログラム」の企画・運営に関わりたいと思うか

関わりたい、少しなら関わりたい、どちらでもない、関わりたいとは思わない、関わりたくない

・ また、同じ「遊びのプログラム」に参加したいか

参加したい、どちらでもない、参加したくない

(1) アンケートの共通項目（素案）（続き）

・ 次にやってみたい「遊びのプログラム」は（複数選択回答）

スポーツ、音楽、工作・手芸、料理、劇遊び、ゲーム（トランプ・ボードゲームなど）、読書、宿題・勉強、昔あそび、鬼ごっこなどの外遊び、その他（ ）

・ また児童館に遊びに来たいか

また来たい、たまに来たい、どちらでもない、あまり来たくない、もう来ない

○保護者用

①対象

児童館を利用しているお子さんの保護者

②アンケート項目

・ あなたの性別（単一選択回答）

男、女

・ お子さんの学年（単一選択回答）

未就学児、小学生（1年、2年、3年、4年、5年、6年）、中学生（1年、2年、3年）、高校生（1年、2年、3年）
その他（ 歳）

・ お子さんにとって、今回の「遊びのプログラム」への参加は（単一選択回答）

有意義だった、まあまあ有意義だった、ふつう、あまり有意義ではなかった、有意義ではなかった

(1) アンケートの共通項目（素案）（続き）

・児童館に期待する取り組み（複数選択回答）

保護者同士の交流会、子育てに関する研修、子育てに関する相談、産前・産後において必要な知識の学習及び相談
放課後児童クラブ、児童館による子どもの一時預かり、その他（ ）

・児童館活動で保護者自らできること（やれること）

※記述式回答

○地域住民用

①対象

子ども、保護者を除く地域の住民（※地域の有識者や地元の関係者を含む）

②調査項目

・性別（単一選択回答）

男・女

・年代（単一選択回答）

～19歳、20代～40代、40代、50代、60代、70代、80代～

・今回の遊びのプログラムは地域を巻き込んだ企画だったか（単一選択回答）

はい、どちらでもない、いいえ

・児童館と地域が一体となった児童館の活動へ参加するか（単一選択回答）

積極的に参加する、たまに参加する、どちらともいえない、あまり参加しない、参加しない

(2) アンケート実施の際の留意事項

- ・「アンケートの共通事項について」に記載したアンケートについては、プログラムを実施するすべての児童館が行うこと。
- ・上記「共通項目」以外で児童館独自の調査項目を追加してアンケートを実施することは差し支えない。
- ・アンケートの質問文は、各児童館において、方言など馴染みのある言葉を遣い、回答しやすい文章にすること。
- ・小学校低学年生もアンケートの対象に含まれているため、難しい漢字の使用を控え、または「フリガナ」をふるなどをして、低学年の子どもに配慮したアンケートにすること。
- ・アンケートは、子ども用、保護者用、地域住民用に分けて実施すること。
- ・回収方法について工夫を凝らし、回答率の向上に努めること。
- ・その場でアンケートが記入でき、また、無記名による実施など、回答しやすいアンケートとすること。
- ・アンケート実施後は、必ず集計・分析をすること。

(※アンケートの集計様式については、各児童館に事務局より配付する。)

3. 報告書に記載する共通項目について

- すべてのプログラム実施児童館が作成する報告書には、下記の「(1) 報告書に記載する共通項目」を必ず記載すること。
- 各児童館において独自の報告項目を追加することは差し支えない。

(1) 報告書に記載する共通項目 (素案)

- ① 次の共通項目は必ず報告書に記載すること

I. 基本項目

1. 実施主体

- ・実施児童館名
- ・プログラム名

2. 「遊びのプログラム」について

- ・プログラムの目的
- ・プログラムの対象者
- ・主なカテゴリー（こどもの城が開発してきた健全育成のための活動プログラムの各カテゴリー）
【①運動遊び、②造形遊び、③音楽遊び、④映像・科学遊び、⑤児童文化・ゲーム遊び、⑥交流・仲間づくり
⑦親子遊び・子育て支援、⑧その他】
- ・プログラムを企画した際に、子どもの成長発達段階に与える効果として期待したこと

II. プログラムの実施準備

1. 企画・運営実行委員会等の実施内容

- ・実施内容について

(1) 報告書に記載する共通事項(素案)(続き)

- ・実施回数(うち子どもが参画した回数・うち保護者及び地域の住民が参加した回数)
 - ・参加人数(うち子どもの参加人数・うち保護者及び地域の住民の参加人数)
2. 子どもの参画について
 - ・企画に取り入れた「子どもの意見」
 - ・子どもの参画についての評価
 3. 準備にあたって地域との連携に関する取組等について
 4. プログラム実施準備で困難だったこと

Ⅲ. プログラム実施状況

1. プログラムの実施内容
 - ・実施内容について
 - ・実施回数(うち子どもが参画した回数・うち保護者及び地域の住民が参加した回数)
 - ・参加人数(うち子どもの参加人数・うち保護者及び地域の住民の参加人数)
2. プログラム実施にあたって配慮したこと
 - ※参加の呼びかけなど・配慮を必要とする子どもへの対応・異年齢の参加者の居場所づくり・地域住民との交流など
3. プログラム実施にあたって困難だったこと

Ⅳ. ふりかえり

1. アンケートの実施・回収方法及び集計結果について

(1) 報告書に記載する共通事項(素案)(続き)

2. 検証・評価の実施状況について

- ・実施回数
- ・参加メンバー(子どもや地域の住民も含める。)
- ・人数等

V. プログラム実施結果の検証・評価(複数のプログラム実施の場合は、個別及び全体の検証・評価)

1. 実施した「遊びのプログラム」に関して、児童館で実施する有効性や課題、反省点さらには改善の方向性
2. プログラム実施による子どもの成長発達段階に実際に与えた効果
※実施前の期待した効果と実際に与えた効果や子どもの変化を比較、検証する。
3. 地域との関わり合いについて、プログラム実施前後の変化
4. 子どもが企画運営の段階から参画したことによってプログラムに与えた影響と子どもの変化
5. 児童福祉におけるプログラムとしての意義

※「児童福祉におけるプログラム」とは

子どもと長期的・継続的に関わり合いを持ち、遊び及び生活を通して子どもの発達の増進を図るもの。特に発達課題を踏まえた子どもの健全育成の土台づくりなど個々の家庭や地域全体が抱える時代のニーズに対応するもの。

VI. その他

遊びのプログラムを実施した感想と今後の児童館のあり方について

(1) 報告書に記載する共通事項 (素案) (続き)

- ② 下記について、報告書の関連資料として添付すること (各2部提出)
- ・プログラムの実施過程において配付した資料等
 - ・チラシや広報紙などの資料
 - ・実施したすべてのアンケート

(2) 報告書作成の際の留意事項

- 報告書の作成部数は、下記のとおりとすること
 - ・遊びのプログラム等に関する専門委員会に10部
 - ・厚生労働省雇用均等・児童家庭局総務課少子化総合対策室に10部
 - ・その他児童館保管用、近隣児童館及び担当自治体配付用として概ね20部以内
- コピーや簡易製本など簡素な報告書とすること
 - ※報告書の製本等を委託して華美な報告書とならないようにすること